

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一通 第55号

発行:2017年6月5日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

安居会法座

日 時 6月23日（金） 9：00～15：00頃

朝席 9：00～11：00

仏事作法 ご講師 藤末 真 師（広島市寺町 元成寺住職）

昼席 13：00～15：00

法座 講師 天野 英昭（天龍寺副住職）

第68回歎異抄輪読会

日 時 6月15日（木） 19：00～20：30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

★天龍寺佛教婦人会清掃奉仕 6月10日（土）13：30～15：00

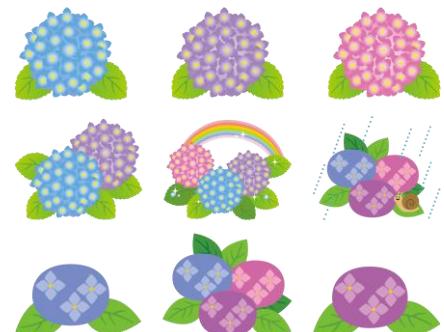
★天龍寺佛教壯年会 月例会 6月30日（金）19：00～20：30

☆川上佛教婦人会法座

日 時 7月2日（日）9：00～15：00

場 所 妙徳寺

ご講師 牛尾かおり師（広島市温品 明光寺坊守）



いすれば『亡き父・夫』と言われる存在である私。(Ⅲ)



自己中心的な人間の願いは、「我痴」「我慢」「我見」「我愛」を基盤とする願いであります。自ずから小さく・狭い領域の願いであると考える事でもあります。

「不思議」とは思議すべからずと近頃解釈をしております。人間の知性・理性では理解できない、五感を超えた大きな世界・大きな願いに目覚め、日頃小さな願いに生き一喜一憂し、人生終焉の際に「いったい自分の人生とは何だったのか?」「自分の歩いてきた道は、正しかったのか?」と問う

生き方から、二河白道の喩えではありませんが、「この道を歩んで行け、この道を歩んで来い」との力強い絶対の呼び声のもと、本当に難しい事ですが、大きな願いの中で生きて行く人生を歩めたらと思う事であります。

言葉に語弊があつてはいけませんが、これまで度々耳にしてきた言葉に『死んだら終わり。否、健康のうちが花。』ではありませんが、健康な時は、それはそれでよいと思いますが、生産性が落ち、社会貢献等が出来なくなり、家族・周りの方々のお世話をいただく身体になっても、大きな願いのもとお浄土・絶対の世界に生まれさせていただく人生、仏となさせていただく人生、念佛成就の為の人生を受け取らせていただければ、たとえ健康を害し、社会等に貢献が難しくなっても、意味ある人生をおくる事が出来ると思う事があります。人間の価値観を超えた大きな願いに導かれていく人生には、人生の全てに意味・意義があると受け取らせていただく事であります。

自然界に目を向けてみると、前号の寺報でも少し書かせていただきましたが、当山には桜があります。私は、自分の興味・関心がある花が咲いた時しか桜を見てこなかったと思う事があります。1年を通じて花が咲く時期なわずかであり、その他は、葉が茂っている時期、さらに秋には葉も落ち、新芽が出始める約4~6ヶ月間は、花はもちろん葉もついておりません。

その事をふまえ思いますに、いつも満開の花を咲かせようとしている自分は、ひょっとすると少し傲慢な存在かもしれません。

以前当山にご関係の方が「死に向かっていく人生の事を考えると絶望感しかない。」等の主旨の事を言われましたことがあります。お釈迦様がご出家されましたのも「この絶望感」が、大きな理由であるとご教示頂いた事があります。

少し気障な言い方になりますが、『この世に生を受けたという事は、同時に死という必然を伴つてこの世に生を受けた。』と近頃しみじみ考える事があります。

生・死は表裏一体の関係であると知性等では理解しながら、還暦を迎える今日まで、幼少期から日々悩み・苦しみ・不安・恐怖等におびえ、時に大きな悲しみに出遭いながら等の人生を繰り返し、一方で毎日同じ生活を繰り返しております。ある先生のお言葉をお借りすると、ある意味むなしい人生をおくっていると感じる事もあります。

本当に難しいと自覚しておりますが、南無阿弥陀仏と共に人間の価値観を超えた大きな願いに目覚め、娑婆に於いては、順境・逆境を南無阿弥陀仏のご縁としていただきながら、娑婆の縁がつきましたらお浄土へと導かれていく人生を少しでも私なりに歩めたらと思う事であります。

最後に、『無碍の一通53号~55号』まで、「いすれば『亡き父・夫』と言われる存在である私。」という題で長々と書いてきました事、さらに高飛車な個所も多々あり、みなさまにはお詫び申し上げるしだいです。